

2年 | 白岩 あゆみ さん [福島県立田村高等学校 出身]

鳥取のお気に入り

ウィンタースポーツに挑戦!

東北地方出身ながらウィンタースポーツの経験がない私。鳥取には中国地方最高峰の大山、若桜町の氷ノ山といった有名なスキー場があるので、在学中にスキーとスノボにチャレンジしたいですね。



農業技術を学んで故郷に持ち帰りたい!

私の故郷は、東日本大震災で被災した福島県葛尾村です。実家は米・たばこなどを育てる農家ですが、原発事故の被害によりいまだ農業を再開できていない状況。「技術を学んで福島の農業を助けたい」という思いから、推薦で入れる農学系の大学や専門学校を探していました。そんな中進路指導の先生が「推薦をやるなら面接練習を兼ねてAOも受けてみる」と鳥大を勧めてくれたんです。マス目も下線もない白紙の入学志願票には悩まされました。どう書けばいいのかさっぱり分からなくて。生物の先生に添削してもらいながら何度も書き直し。だらだら書き連ねるのではなく、きれいにまとめるのが難しかったですね。

面接は丸暗記せず自然な言葉で伝えよう

面接は、丸覚えでは言葉が硬くなる。キーワードを覚えて、その時浮かんだ言葉で自然に話すのがコツ。寡黙な人、突っ込んでくる人など、様々なタイプの先生と練習しておく慌てずに済みますよ。1次選考は東京で受験したんですが、前日に台風が来て乗車予定だった新幹線がストップ!急きょバスに変更、なんとか深夜に到着したものの、もし試験会場が鳥取だけだったらアウトでした。1次合格後に課題論文のテーマが通知されます。2次選考当日までに仕上げればよいので時間は十分ですが、論文練習をあまりしていなかった私は、提出前夜にホテルで清書する始末。苦手な人は論文練習を怠らないで。

アドミッション・ポリシー

AO入試で求める人物像

募集人員(予定): 14人

【趣旨】太陽と水と土に根ざす農学を自ら主体的に学び、幅広い視野と創造性をもって社会へ貢献できる人材の育成を目的としています。このため、従来の学力試験による選抜方法と異なり、能力、適性、意欲、関心などを多面的に総合評価するAO入試を実施します。

いのちを育み環境を守る意志が強く、自ら積極的に学ぶ姿勢・チャレンジ精神・リーダーシップを有し、かつ次のいずれかに該当する人を求めます。

- 食料生産、自然環境修復あるいは生物資源の利用に関する研究・技術の開発普及に貢献することを志す人
- アグリビジネスあるいは環境関連産業において起業家を志す人
- 農学に関する知識・経験・実践力をもとに地域・国際貢献を志す人

平成25年度AO入試第2次選考 <選抜のポイント、面接・論文等の出題例等>

平成25年度AO入試がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。平成26年度AO入試が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

全体を通して求める力

生物資源環境学科では、自ら意欲的に学び、学んだことを実践に応用できることを重視しています。高校時代に履修できる、あらゆる科目を積極的に学び、知力、体力、コミュニケーション力、気力、実践力の基礎を養ってください。

※選考に際しては、下記の内容をアドミッションポリシーに照らして総合的に評価しました。第2次選考では、第1次選考の評価を加えることなく、第2次選考の評価結果のみを採用しました。

書類審査	第2次選考に対して提出された調査書・入学志願票を精査しました。
課題論文(1日目)	平成25年度入試は「あなたは大学で何を主体的に学びますか?その内容、方法および工夫について」について具体的に1000字程度で論ずるものでした。第1次選考合格者に課題論文のテーマを与え、事前に記入し、受験生は第2次選考当日に持参しました。
グループディスカッション(1日目)	グループディスカッションは、受験者を4グループに分け、グループ毎に討論を行いました。設定された課題に対する自分の考えを論理的に述べることや、他の受験生の意見などを聞いた上での意見のやり取りなど、多面的に評価しました。
個人面接(2日目)	3名の試験委員による1人30分程度の面接を実施しました。また、高校レベルの基礎的な英語力を問う試問を行いました。